◈漁村高齢者能力活性化事業

トコブシのカゴ養殖試験

金　城　武　光

1．目的

昨年同様、海上施設を使用して小型カゴにシェルターを設置して垂下し、成長・歩留まりをみながら、養殖技術の習得と事業化への検討を行う。

2．対象

浦添宜野湾漁協トコブシ養殖グループ

3．協力機関

水産試験場・浦添宜野湾漁協

4．経過

カゴの制作は昨年同様、市販のマルチボックスに直径5㎜の穴を電動ドリルで無数にあけ、付着物防止用の塗料（アクアセイフティーとセイフティープライマー）を塗り、シェルターは雨樋とエンビパイプを用いてループタイで固定した。

さらにカゴの外側底部に1kgの錘を固定、垂下用ロープを取り付け合計10カゴ用意した。

漁場は、浦添宜野湾漁協が沖縄県知事から占有許可を得ている、第一種宜野湾漁港区域の生簀を使用することとし、農林水産部漁政課長へ区画漁業試験操業届けを提出した。

垂下台は、養殖生簀一面の中央に柱を使用した作業台を渡し、その両側にドブズケパイプを固定し、このパイプにカゴを垂下するように準備した。

種苗の輸送は、6月21日あらかじめ水産試験場で選別・測定した稚貝を、アナアオサで包むようにマルチボックスに100個ずつ収容し、乾きによる稚貝の斃死がないよう搬送した。

稚貝の大きさは、50個平均25.7㎜サイズで、水産試験場から養殖試験用として無償譲渡されたものである。

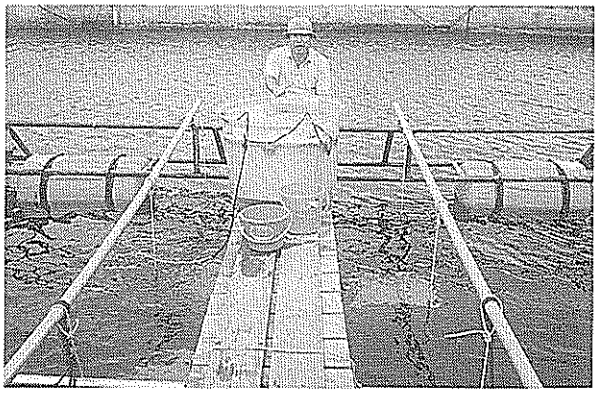
餌は、搬送時に使用したアナアオサがなくなり次第、トコブシ用配合飼料（台湾産）のみ週3回（月・水・金）給餌した。

成長は、収容後2ヶ月後の平成12年8月23日は、24.5～41.7㎜平均32.4㎜。10ヶ月後の平成13年4月23日34.2㎜～58.1㎜平均47.1㎜で昨年と比較して成長が著しく悪かった。

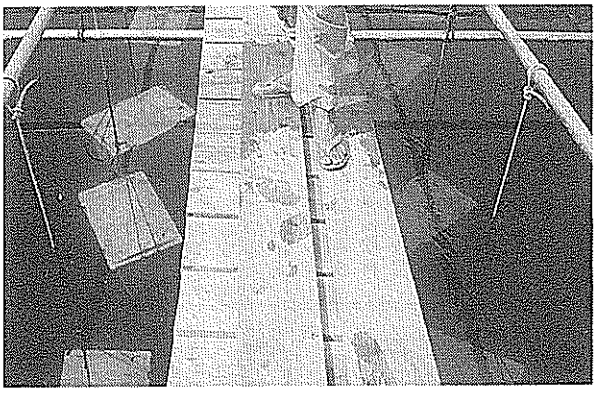
歩留まりは、昨年は斃死がほとんどみられなかったのに対し、今年度は平均80.7％（68～97％）とこちらも悪かった。

今後の課題として、平成11～12年度の養殖試験でトコブシの養殖技術は、ほぼ習得されたものと考える。

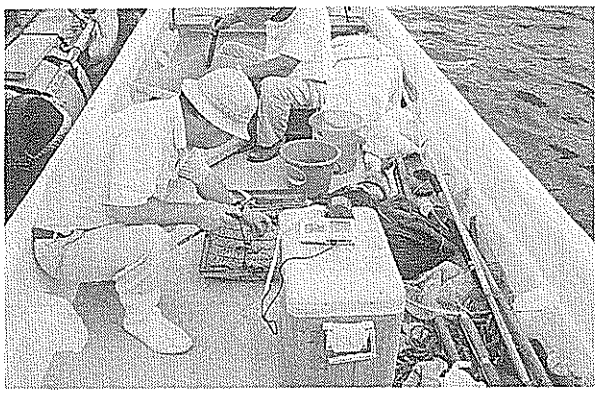
この技術を生かした陸上施設での養殖・海上養殖（生簀での垂下養殖及び延縄式垂下養殖等）に向けての漁業権取得等、事業化についてトコブシ養殖グループと漁協との検討が必要である。



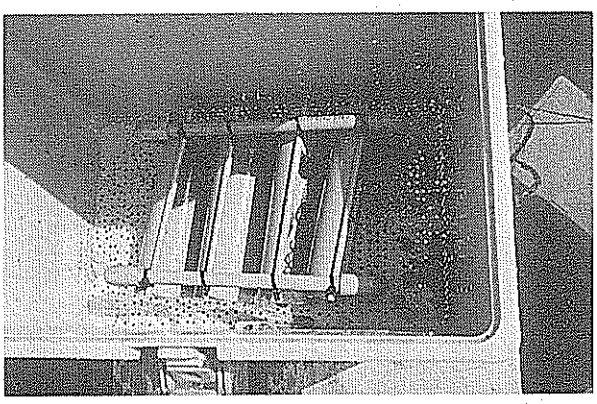
作業台とカゴ垂下用パイプ



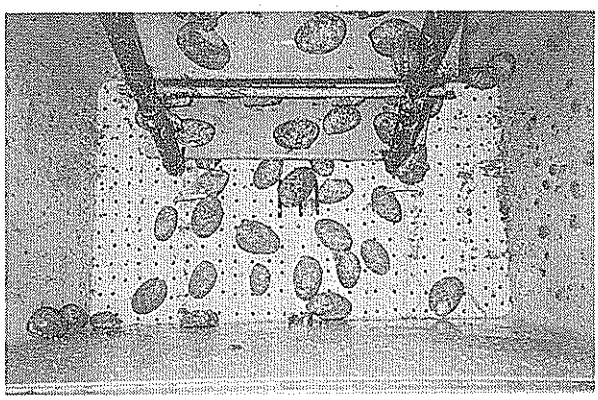
垂下したカゴの様子



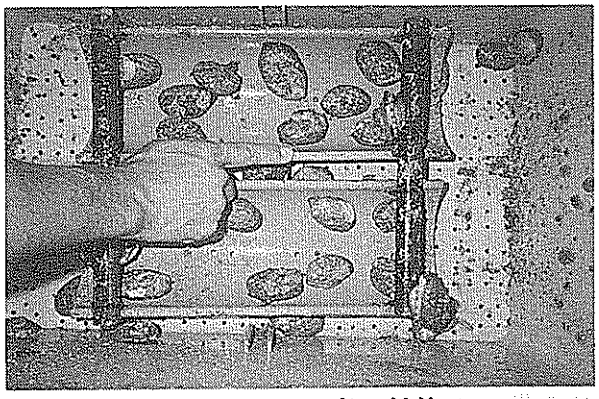
貝の測定



シェルター



底部への付着



シェルターの裏へ付着